

# JAITI 62

JAITIとは、「公益財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発 行 公益財団法人 日本農業研修場協力団  
事 務 所 〒386-0502 長野県上田市武石沖605-5  
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

◆URL <http://www.jaiti.org/> ◆E-MAIL [jaiti@janis.or.jp](mailto:jaiti@janis.or.jp)

## 今日のジャイチ

依然として新型コロナウイルスの報道が続いています。

一頃の状態からすると感染の衰えが見え、ようやくトンネルを抜けることができののだろうかと思われましたが、これまでのコロナウイルスが変異したと言われるオミクロン株による感染拡大の懸念が、またまた政治や経済の進展に影響を及ぼすことになりました。

感染防止の水際対策として海外との往来の際の検査の強化が打ち出されていますが、これまでのように気軽に渡航できるまでに

は、もうしばらく時間が必要のようです。

一方、ワクチン接種や飲み薬による重症化リスク回避の処方が進められていることから、新型コロナウイルスが出現した当初の不安感からは少なからずも脱却できるのではないかと期待をしています。

ネパールの1月5日現在の感染者累計は83万人と報告がありました。昨年の7月時点(64万人・死亡9千人)から19万人の増加となっています。このところの各国の感染



▲ネパールのカカニ・ブライター学校が、同地区にあるカウレデビ小学校と合併して公立学校になりました。今後は、両学校の施設の特徴を活かしながら、幼稚クラスから10年生までの成長段階に沿った授業が進められていくことになります。

拡大と同様に、ネパールにおいても危惧されており、今後学校では休校措置がとられるとの情報も聞かれます。

コロナ禍にあつて、日本とネパールの事務局とは通信手段に頼るばかりとなつていますが、視点を変えて見ると、これまでのような指示待ちではなく、ジャイチネパールが自ら考え行動することにつながっていくのではないかと考えます。

### カカニ・ブライター学校が公立学校としてスタート

カカニ・ブライター学校の自立を目指して、地元カカニ村と協議を重ねてきましたが、昨年9月に協議が整い、村内にある公立のカウレデビ小学校と合併して「カウレデビ・カカニ・ブライタースクール」の新校名でスタートすることができました。合併したカウレデビ小学校は、生徒数60人ほどの小規模校ですが、ブライター学校の最も近くにあり、地域としても一体的に運営していくことができるようになり、ある程度整った教育施設の提供を受けられることにより教育環境の向上にも繋がることを期待



▲合併したカウレデビ小学校

しています。

合併協議にあたっては、教育省経験者でもあるジャイチネパールのチーフアドバイザーのビム・ラル・グ

ルン氏が積極的に自治体や政府などとの調整を進めてくれたことにより、想定以上に短期間のうちに目的を達成することができました。

また、ジャイチの活動で最初に取り組んだバシファント学校の自立の際はクラスごとの移行だったため、完全な形になるには長い年月を要しましたが、今回はクラス全体を一時に移行することで、経済的な負担が軽減されました。

今回の合併では、ジャイチネパールが所有している学校施設および用地をカカニ村に寄附する手続きも行われましたが、合併後の学校名にカカニ・ブライターの名称を残すことや地域学校として10年生までの教育

をしつかり行って欲しいなどを村に要望しました。当面の間、カウレデビ学校の学校管理委員会が新学校の管理をしていくことになり、校長はブライター学校のビノズ・デュラル校長が引き続き勤めています。

公立学校になったことで、様々なメリットが出ていますが、ジャイチネパールからの報告(2面)や生徒たちの感想文(3面に掲載)から伺うことができます。

現在259人の生徒が学んでいます。公立学校になったと言え、政府からの財政措置は十分でないため、教職員の確保や待遇など課題は多くあり、様々な機関からの支援や協力を必要としています。

今後も親としてのジャイチのサポートが求められています。



▲合併の手続きをするジャイチネパールのスタッフの皆さん

# ジャイチネパールから

## レカリバシファント学校で 保護者会開かれる

2021年11月14日に第28回目の保護者会が行われました。新型コロナウイルスの感染拡大により約3年ぶりの開催となった今回の会議では、過去3年間の収支決算が報告され、出席者全員の賛成により承認されました。

また、学生寮の建設と境界フェンスの設置、インターネット接続、科学研究室、図書館、清浄な飲料水の供給設備、通学道路の舗装、生徒に優しい環境づくり、人権教育教材の手配、スポーツと楽しい学習方



レカリバシファント学校の校庭で開かれた保護者会

法、コンピュータ教室、学校看護師の手配、教材など、これまでに学校運営委員会が行ってきたいろいろな事業が報告され、様々な関係者からの協力と連携により生徒のための学習基盤が整えられていることがわかりました。

これらの事業を進めるにあたって、協力機関との橋渡しや調整にジャイチネパールは大きな役割を果たしてくれました。

しかし、学校が引き渡される前のジャイチが直接に係わって積極的なアドバイスや心配をされていた時の学校は、教育的な活動と学力は満足できるものでしたが、引き渡し後は、ネパール政府の教育政策および様々な理由で、教育の質は満足とは言えない状態になっています。

これの主な理由は、科目ごとの教師不足があまりです。教師の雇用について、学校管理委員会の会長以外のメンバーや地域が積極的でなかったり、教師の研修不足そして無料教育の名目で学校が経済的な問題を抱えていることがあります。

学校の物理的な整備は比



▲雪に覆われた新年のレカリバシファント学校  
コロナ感染の影響で休校も多かったが、様々な協力者によって環境整備が進められている。現在、男子178人、女子203人の計381人が学んでいる。

## カカニブライター学校を 村に引継ぎ完了

比較的進んでいます。教育の質の向上のためには、これらの問題にも対処していかなければなりません。今回の集会では、教育法に従って新たに女性2人を含む7人のメンバーで学校管理委員会が構成されました。その中から会長を選ぶ手続きが残っています。

(バシファント校長  
ラデュラル・マन्दル)



▲久しぶりの積雪で童心に帰って？  
つるぐマन्दル校長

カカニ・ブライター学校の引き渡し手続きが2021年9月9日に完了し、新たな学校名カウレデビ・カカニ・ブライタースクールが誕生しました。引継ぎにあたって地元自治体や国の関係省庁と迅速に調整を行ってくれたジャイチネパールに大変感謝しています。ブライター学校は、2005年にジャイチジャパンの支援を受けて設立され、開校以来、非常にわずかな学費で地域の子どものための教育に貢献してきました。

この度、公立学校との合併により、カカニ村に引き継がれましたが、ジャイチ

ジャパンが教育の向上を目指して取り組んできた成果であり、今後も地域の学校として存続していくことができるものとなりました。

ネパール政府の最近の教育政策は、公立学校の質の向上に焦点を合わせており、公立学校となったブライタースクールも政府の様々な教育支援を受けることができるようになりま

す。政府支援の教員の確保、さらに、女子奨学金、ダリット(低階層の人たち)奨学金、10年生までの給食や学校の教材をはじめ管理費施設の整備などにも基本的な援助を受ける資格があります。

また、公立学校を卒業した生徒たちは、私学の生徒たちよりも優先的に進学する機会を得ることができるとも合併できたことの大きな成果となります。

しかし、現在22人の教職員のうち、7人の教師と2人の職員は政府からの給料支給ですが、残りの教職員は村の管理委員会が負担していく必要があります。これから徐々に、政府の教職員は増えていくものと思いますが、それには数年かかることが想定されます。

政府は「学校教育は無料」

と定めているため、達成されるまでの間の教職員の待遇については、今後の課題となっています。

とかく、ネパールの公立学校の教職員は政府からの十分な給料と身分を保証されているという立場にありながら、どこでも教育の質は悪いと聞いています。

新たなブライタースクールにあつては、学校教育の質を維持し向上させるために、ジャイチがレカリバシファント学校で役割を果たしているように、質の高い情報の提供と質の高い支援を求めていく必要があります。

(カカニ・ブライター校長  
ビノズ・デュラル)



▲カカニ村への引継ぎ手続きのために所轄のトリスリにある関係機関を訪れた左からジャイチネパールのツルン氏、KC氏とビノズデュラル校長



# ご協力有難うございました

この六ヶ月の間に、左記の方々より、ご支援を戴きました。お礼申し上げます。

## ◆ 人的協力

〈東京都〉

滝和美

〈長野県〉

柿島明子、菊池健介、株式

会社北澤土建、有限会社佐

藤新聞店、田口裕唯、田村

由紀子、根岸厚次・真貴子

〈海外〉

ネパール ホテルサンセット

ビュー・アルジュン・シン／絃子・  
トラチャン

## ◆ 寄附金

〈北海道〉

小池靖子、内藤喜美子、中

村静子、水口馨

〈福島県〉

岡村健

〈茨城県〉

伊藤甫、折本拓郎、長谷川

秀雄、藤井英雄

〈栃木県〉

森聖哉

〈群馬県〉

斉藤孝夫、塚越雅幸、堀越

利通

〈埼玉県〉

小野美津男、加藤美恵子、

近藤順司、斉藤節子、常陸

民生



絵 マン

## ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。

皆様方からのご寄附に対し、所得税法・法人税法上の優遇措置を受けることができます。以下に説明致しますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

### ジャイチの基本的財源として

皆様よりいただいた寄附金を、ジャイチの公益活動を維持・継続していくための財源として、受け入れるものです。寄附金の用途・内容については、ホームページ記載の決算書等により、皆様にお知らせ致します。

その中より余剰資金が発生した場合は、今までどおり基金として繰り入れいたします。基金は、ジャイチの財源を安定させ、ジャイチの活動をよりいっそう強固な活動につなげることが出来ます。

### 所得税法、法人税法の優遇措置

公益財団法人は、すべて税制上の特定公益増進法人となり、寄附していただいた金額は、下記の寄附金優遇措置の対象となります。

- ①所得控除 その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額が総所得金額等、退職、所得金額又は山林所得金額より控除できます。
- ②税額控除 その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額の40%が所得税額から控除されます。

(例 10,000円の寄附の場合 所得税が3,200円戻ります。)

上記優遇措置を受けるには基本、確定申告が必要です。

(税法の改正等がありますので、詳細は税務署にお問い合わせください。)

### 郵便振替・銀行振込での募金

- お振込先
  - ◎郵便振替 00510-4-65434
  - ◎銀行振込 八十二銀行 丸子支店 (普)420577
  - [口座名] 公益財団法人 日本農業研修場協力団

〈千葉県〉  
 佐瀬萬亀、相樂洋子、高橋節子、武藤貴子、吉田秀子、吉村芳江  
 〈東京都〉  
 有田千代、池田照子、石田昭夫、今井正史、大田原房子、小川金三郎、小川昌子、小澤久美子、小野寺えり子、尾身恭子、鎌倉恵子、鎌田はなよ、神長善次、河野節子、木村慈子、黒田秀基、須田清法律事務所須田清、須藤節子、滝和美・三希子、中瀧いづみ、中村千鶴、西岡巖、野村明賢、林なるみ、正田英子、松田重箕、松本謙一、森山アキ子、山下靖典  
 〈神奈川県〉  
 小林みよ子、櫻井道子・小山佐都子、島田正義、十河三郎、田辺正則、丸山進治・佳子  
 〈長野県〉  
 株式会社アサネット赤羽巧、内野倉千枝子、小山村秀士、柿島明子、菊池健介、北澤隆洋、北原千歳、久保田寛人、黒沢勇人、高本洋子、小林淳、小林展子、小林直文、斉藤一美、齋藤敏、坂井永一、武内美栄子、武田順治、田村由紀子、株式会社東信ジャーナル社、内藤喜美子、中澤知史、株式会社長門牧場代表取締役竹内

邦義、名倉慶子、箱山年子、有限会社花岡、舟木公栄、松久よし子、松林進、宮下篤、宮下静子、柳沢利文、横関絢子、ジャイチ事務所寄附金箱  
 〈新潟県〉  
 岡村順子、帯瀬憲五、小森修  
 〈福井県〉  
 金森朗子  
 〈岐阜県〉  
 庄村敏  
 〈静岡県〉  
 山梨加代子  
 〈愛知県〉  
 岡本守弘、伊藤正裕、小園四男、佐藤昭男、白澤たづ子  
 〈滋賀県〉  
 岡田千尋、西村敏、松延宏昭  
 〈大阪府〉  
 北岡満  
 〈兵庫県〉  
 小野道彦、新海泉、玉岡昇治  
 〈和歌山県〉  
 中前孝啓  
 〈鹿児島県〉  
 國崎敏廣・栄子、西重正博

株式会社高崎ベアリング商会  
 小坂橋靖幸  
 〈埼玉県〉  
 鈴木吉人  
 〈千葉県〉  
 小宮芳子他2名  
 〈東京都〉  
 池田照子、内山律子、小池敏雄、坂本千春、滝和美、ネパールの子ども達に文具を送る会、森山アキ子、吉田赫子  
 〈神奈川県〉  
 三木美苗、吉川卓子  
 〈長野県〉  
 井沢永美、小澤仁乃、菊池健介・道子、小林淳、長門郵便局、依田窪老人保健施設  
 〈愛知県〉  
 原田さち  
 〈大阪府〉  
 鎌野富美子  
 〈兵庫県〉  
 丸尾信  
 〈鹿児島県〉  
 西重正博

◆ 寄付品

〈群馬県〉



ネパール大震災からの復興は？

2015年にネパール中部を襲ったマグニチュード7・8の大地震から7年を迎えます。この地震によってカトマンズ市内にある数多くの世界遺産建造物も大きな損壊を被りました。現在も復旧は道半ばの状況ですが、コロナ禍にあっても着々と修復工事が続けられており、終息した後の観光客の訪れを待ち望んでいます。



▲クマリの館の隣で再建中の寺院。歴史的建造物の修復には技術と時間と費用が掛かると言われている。



▶被災後4年目の様子  
復旧はあまり進んでいない

ネパール観光の中心となっているカトマンズ王朝宮殿のダルパール広場では、震災前には外国からの観光客が大勢行き交っていましたが、今は寺院に向かう地元の人たちの姿が殆どなくなっていきます。復旧が進むにつれて土産物の露店も並ぶようになり賑わいを取り戻しつつあるようです。



▲震災後間もない頃の上の寺院のあった場所(⇒)。土台だけを残して崩壊している。左がクマリの館



# 生徒たちの声

カカニ・ブライター学校が公立化になった感想を生徒たちに寄せていただきました。

ジャイチの直接的な関わりがなくなることの寂しい気持ちの反面、政府の学校で学ぶことによって将来に明るい希望が持てることへの期待が綴られています。

ケシャン・タマンさん  
10年生



私たちの学校が国立学校に変わってとても嬉しいと思っています。ジャイチの皆さんには、長年私たちのケアをしていただき感謝しています。ジャイチの皆さんがいなくなり、とても寂しい感じがします。

それは、私たちにとってショックなニュースでした。あなたたちが私たちを長年サポートしましたので、とても悲しいと感じています。あなたたちの愛、

サポートとケアが無くなることは寂しいですが、あなた方を一生忘れません。

それから、国立学校では私立学校に比べて、いろんな分野に優先度があると聞いて嬉しいと思っています。

国立学校では、優先度でいろんな機会と奨学金を受け取ることができ、そして将来に仕事ももらえると思っています。私立学校には国立学校に比べ、もう優先度がありません。現在の私たちの学習レベルは過去と同じです。変わりがありません。

最後に、私たちはジャイチメンバーとジャイチファミリーに私たちの面倒を見ていただいても感謝しています。早いうちに、私たちの今の学校へ訪問されることをお待ちしております。ありがとうございます。



ニマ・ティツンさん  
10年生



私たちは、ジャイチに愛、サポートとケアをいただいて非常に感謝しています。

皆さんはご存知のとおり、今年私たちの学校が私立から国立学校に変更しました。これは、私たちにとても意欲的なニュースでした。

同時に私たちは嬉しいとも思っています。なぜならば、ネパールでは国立学校の卒業証は私立学校に比べ優先度が高いです。国立学校の生徒たちは、奨学金に参加することができると多くの人たちが言います。

私は、10年生以下の生徒たちは将来的に、より多くのチャンスを得ることができると思います。なぜならば、地方と中央の両方の自治体が責任を取っています。地方自治体が科学研究所を設立していると聞いています。これは私たちの学習にとっても助かります。

現在の学習レベルはこれまでと同じです。変わったのは学校名だけだと思います。多くの経済的に貧しい保護者たちは、学校が変わって嬉しいと思っています。学校が合併したことで、彼らの子どもたちに適切な教育を与えることに役立つこともあります。

最後に、私たちはジャイチメンバーとジャイチファミリーに心から感謝しています。早いうちに、私たちの学校を訪問していただくことをお待ちしております。ありがとうございます。

アシカ・シュレストアさん  
10年生



私たちの学校カカニ・ブライタースクールはシュリー・カウレデビ小学校と合併しました。合併する主な目的は、子どもたちに質の高い教育を与えるためだと思います。以前は、良い教育のために遠くまで行かなければいけませんでし

私たちの学校及び関係者と責任者の皆様は、コロナ禍による損害を乗り切るために頑張ってくれていることと思います。

私たちは心からジャイチと関係者の皆様に感謝しています。



私たちの国では、主に、国立学校に通っている生徒だけが優先されています。例えば、将来の仕事、進学のための奨学金など。高校のある先生たちは変わっていません。だから、とても嬉しいです。

皆んな、地方及び中央自治体は子どもたちのためにいろんな設備を備えてくれるでしょうけれど、これは、カカニ地域だけの対策だと思っています。もつと様々な設備を与えられるはずですが、例えば、通学設備、小学生まで無料給食などです。

カカニ・ブライター学校は地元主体の運営になりましたが、これまでと変わりに皆さんを訪問を待っています。



### 交通渋滞緩和に一役 歩道橋が完成

毎年訪れることができたネパールも、コロナ禍により足を運ぶことができず、つぶさに現地の様子を見聞きすることができない状態が2年以上になりました。この間、感染拡大により幾度となく繰り返されているロックダウン等により、カトマンズ市中でも大きな変化は見られず、停滞感のある状態が続いているのではないかと推測していましたが、場所によっては着実に市街地整備が進められて

いるようです。ジャイチネパールの事務所やジャイチ関係者とも馴染みの深いサンセットビュートホテルの入口となるニューバネソールの交差点は、リングロード、また、空港へ通ずる主要道路に加えて、横断する人達も多く、信号機も機能を果たさない中で、交通整理官も気の抜けない状態が続いていました。最近になって歩道橋が掛けられました。

以前には馬上から交通整理に当たる警察官の姿が見られたこともあった。歩行者もみんな渡れば怖くないとばかりに、車の流れを気にしながらの横断だったが、意外に事故を目にすることはなかった。



います。この歩道橋を渡ることができる日を楽しみにしたいものです。



▲カトマンズ市内ニューバネソールの交差点に新しく掛けられた横断歩道橋。歩道橋からの眺めを楽しむ人も多く、横断だけではなく人々が集う場所にもなりそうだ。

**書き損じハガキを送って下さい。**  
**未使用も歓迎**  
**年賀ハガキの書き損じ・余りなど...**  
(古いものでもかまいません)  
(切手に交換し、通信費に役立させていただきます。)  
**使用済切手も集めています。未使用も歓迎**  
(切手の周りを5ミリほど残してください)

**第二十三回**  
**JAIT ツアー**  
**お知らせ**  
コロナ禍により実施を見送っているネパールへの旅ですが、多くの皆さんから渡航ができるようになったら行ってみたいとの声をお聞きしています。現段階では実現の判断はできませんが、可能となる場合には改めて参加者の募集を予定しています。  
◆時期 11月初旬 8日間位  
◆企画 ジャイチ  
◆主催 (株)西遊旅行



▲ポカラではヒマラヤのアンナプルナ山系マチャブチャレの独特の容姿が眼前に迫ってくる。

**事務局だより**

7月 ・機関紙61号の編集と発行  
・内閣府へ税額控除に係る証明申請提出  
内閣府より承認

11月 ・国際交流フェスin丸子実行委員会

12月 ・理事会(令和3年度上半期事業報告ほか)  
・機関紙62号の企画・編集

---

6月 ・ライター学校地元カウレデビ小学校と合併決定

8月 ・事務所及び学校コロナにより当分の間閉鎖

9月 ・カカニ・ライター学校合併引き渡し完了  
カウレデビ・カカニ・ライター学校として開始  
生徒数259人  
・自治体教育委員が来校し公立学校運営の指導

10月 ・デザイン休暇

11月 ・バシファント学校年次保護者会開催

**今年の手支は黄**  
**編集後記**  
ネパールの南部に広がるタライ平原にあるチトワン国立公園には、象やワニなど幾多の野生動物が息を吐き、日光に役買っています。密林の王ともいわれるトラも見られるようですが、その数は激減しており、そうした姿を目にすることはできないようです。現地の住人とすれば、田畑を荒らし、人畜に危害を加える厄介者のトラであるとの話を聞いたことがあります。保護と共生の難しいところです。いづれにしても「トラ」ベルが再開できる年であって欲しいものです。

**物故者のお知らせ**  
ご冥福をお祈りしますとともにこれまでもご支援に感謝申し上げます。

木田 信次様  
滋賀県日野町  
二〇年六月

中村 暢子様  
東京都文京区  
二〇年一月

関戸 薫司様  
群馬県太田市  
二〇年一月

小林 清英様  
長野県上田市  
二一年一月